

『学会開催報告』

第24回日本消化器癌発生学会総会

The 24th Annual Meeting of the Japanese Society for Gastroenterological Carcinogenesis

第24回日本消化器癌発生学会総会 会長
(金沢大学がん進展制御研究所)

源 利 成

本総会を2013(平成25)年9月5日(木), 6日(金)に石川県立音楽堂で開催しました。本学会は、ひろくがんの発生および進行の学理と応用に関する研究を行い、消化器がんの診断、治療および予防の向上と発展を図り、人類の福祉に寄与することを目的としています。金沢での総会の開催は1992年と2003年に続いて3回目です。本学会の一貫した理念とこれまでのあゆみに立脚し、設立から四半世紀を目前に新たながん研究領域の開拓の契機になることを願って、本会の総意を「消化器がん制御への歩み」としました。「歩み」は棋界の「歩」にも通じます。がん研究にかぎらず、いまの医学研究における若手の待望に通じると考えます。また、本総会では若手とともに期待が高まっている女性研究者の皆さまも多数お迎えしました。

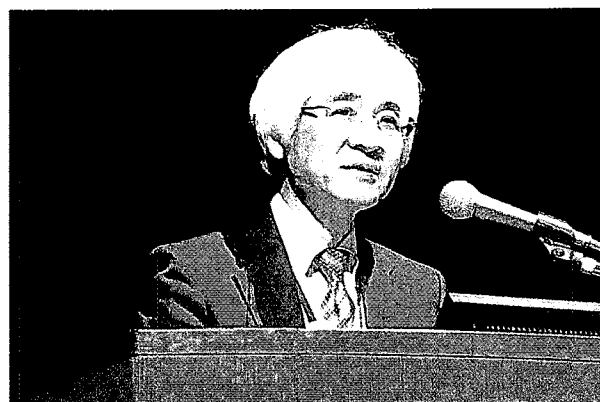
この総会は奇を衒わず、地道に企画、準備しました。今回の主題設定は、最近のがん起源細胞、がん微小環境、上皮-間葉転換、循環がん細胞、浸潤・転移、分子標的、薬剤耐性、ゲノム配列解析などの時流の課題ではなく、敢えて、がんのより根源的な生命活動や、より大局的ながん予防に焦点を当てました。また、がん研究の実学的指向の一つとして、がんの研究や医療開発に欠かせない発がん動物モデルも取り入れました。このため、一般口演も含めて演題が集まるか心配しましたが、それも杞憂となったようです。全国の施設から質、量ともに高いレベルの研究を多数ご応募いただき、ありがたく思っています。

会期中には各種講演11題、シンポジウム18題、ワークショップ16題、主題関連企画18題、一般口演58題、合計で講演11題、研究報告110題の発表と討論が活発になされました。荒天にもかかわらず延べ参加者は登録180名、招待45名、一般参加はおよそ80名で、皆さまから概ねご好評をいただきました。

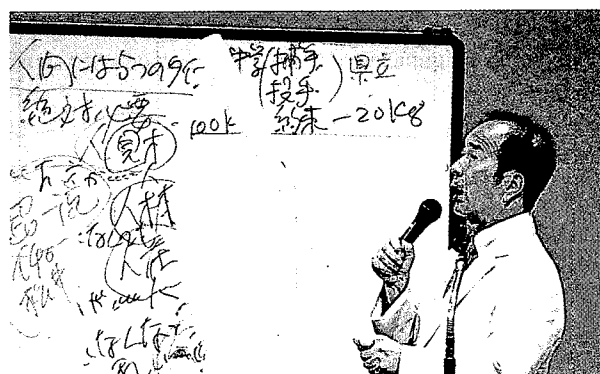
最近、各種の学術集会ではその活動の一環として社会貢献が求められています。本総会では最近、大きな社会問題となっている印刷業者の胆管がん多発事例についてワークショップと関連講演を企画し、最新の情報を討論しました。この課題は一般の皆さまにご紹介する段階ではありませんが、社会的にもきわめて重要な課題として取りあげました。本総会の学術プログラムのうち時局講演では、大きな社会問題となっている「福島原発事故と県民の健康管理」について第一人者の神谷研二先生(広島大学/福島県立医科大学)が講演しました。また、本学会



の目指す若手育成のため、2013年の国民栄誉賞受賞：松井秀喜氏を育てた稲置学園/星稜高等学校野球部名誉監督の山下智茂氏に育成講演をお願いしました。これらの内容はいずれも現在、社会で注目されている課題ですので、この一般公開プログラムをひろく県民の皆さまにお知らせしたいと願い、学術プログラムと併催しました。これに続いて歓迎企画として、私の郷里：能登の御乗兼太鼓(無形文化財)を上演しました。そして、総会参加者や一般参加者の皆さまから暖かいご評価をいただきました。



時局講演：神谷研二先生(広島大学/福島県立医科大学)



育成講演：山下智茂先生(稲置学園/星稜高等学校)

このように、本総会は、がん撲滅を目指す研究者の真摯な取り組みと学問に対する熱意が感じられる学術集会となりました。